



平成28年5月10日

各位

会社名 株式会社丸順  
代表者名 代表取締役社長 今川喜章  
(コード番号 3422 名証第二部)  
問合せ先 常務取締役管理本部長 青山秀美  
(TEL 0584-48-2832)

## 業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成28年2月5日に公表した通期連結業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成28年3月期(平成27年4月1日～平成28年3月31日)において、特別損失として減損損失、事業構造改善費用及び事業撤退損失引当金(個別決算)を計上することといたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 通期連結業績予想の修正

平成28年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 69,000	百万円 1,300	百万円 240	百万円 △3,900	円 銭 △444.90
今回修正予想(B)	67,404	1,875	859	△3,113	△355.11
増減額(B-A)	△1,596	575	619	787	
増減率(%)	△2.3	44.2	257.9	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	63,721	△2,318	△2,846	△3,381	△385.74

#### 修正の理由

平成28年3月期通期連結業績予想について、売上高については若干減収となるものの、利益面については特に日本及びインドアナにおいて製造原価低減が進んだほか、為替差損等の営業外費用が想定より減少したことにより、営業利益及び経常利益ともに前回予想を上回る見込みとなりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、特別損失として減損損失3,535百万円及び事業構造改善費用1,018百万円等を計上いたしましたが、営業利益及び経常利益の改善に加え、減損損失の計上額が想定より約40百万円減少したこと及び同様に事業構造改善費用が約168百万円減少したことにより、前回予想から損失額が減少する見込みとなりました。

#### 2. 特別損失について

当社は、平成28年2月5日開示の「業績予想および配当予想ならびに特別損失発生に関するお知らせ」において、当第4半期連結累計期間に構造改革に伴う特別損失として1,256百万円を計上する見込みでしたが、想定より216百万円減少し、1,040百万円を計上することになりました。尚、主な特別損失の内容につきましては以下の通りであります。

#### (1) 減損損失の計上

当社は、「丸順構造改革プラン」として国内に分散する生産拠点を生産部品、機能軸で集約し、設備、要員、物流及びエネルギーを最大効率で活用できるように工場再編を行ってきました。当社が所有する建物等の固定資産について今後使用見込みがなくなることが想定されるため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき帳簿価額のうち回収可能価額を超過した額を、平成28年3月期第4四半期に減損損失として673百万円を特別損失に計上いたします。これにより、平成28年3月期第3四半期までの減損損失を加えた通期の減損損失は3,535百万円となります。

#### (2) 事業構造改善費用の計上

当社の子会社である広州丸順自動車部品有限公司において、事業構造改革を推進するため、希望退職者募集に伴う割増退職金を平成28年3月期第4四半期に事業構造改善費用として269百万円を特別損失に計上いたします。これにより、平成28年3月期第3四半期までの事業構造改善費用を加えた通期の事業構造改善費用は1,018百万円となります。

#### 3. 事業撤退損失引当金(特別損失)の計上 [個別決算]

当社は、平成28年1月21日開示の「北米事業の撤退に伴う子会社の事業の停止及び固定資産の譲渡に関するお知らせ」にて示したとおり、北米子会社であるインディアナ・マルジュン社の事業を停止すること及び当該固定資産(土地、建物及び自動車部品製造用設備)を譲渡することを決定いたしました。当社が北米事業から撤退することに伴い債務保証等の損失に備えるため、平成28年3月期第4四半期に事業撤退損失引当金として2,149百万円を特別損失に計上いたします。

なお、当該事業撤退損失引当金については、連結決算においては相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

(注)上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上